

## 愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

## 研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（手術検体の病理標本など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（手術検体の病理標本など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	非小細胞肺癌完全切除例における病理組織因子に基づく予後リスクスコアリングシステムの開発
研究機関名	愛媛大学大学院医学系研究科心臓血管・呼吸器外科学
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 心臓血管・呼吸器外科 (職名) 医員 (氏名) 杉原貴仁
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2027年12月31日
対象となる方	2015年1月から2025年12月に愛媛大学医学部附属病院で完全切除術が施行された18歳以上の非小細胞肺癌患者
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、既往歴、現病歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、病理所見、治療状況、予後調査で得られた再発や予後に関する情報等
研究の概要 (目的・方法)	肺癌は日本で多くの方が亡くなっている癌の一つであり、その多くを非小細胞肺癌と呼ばれるタイプが占めます。手術で癌を完全に切除できた場合でも、その後の再発や生存期間には個人差があることが知られています。最近では、癌が胸膜や血管、リンパ管にどの程度広がっているか、また、病変の悪性度といった病理所見が、予後に影響する因子として注目されています。本研究は、これらの所見を組み合わせることで、手術後の再発や生存をより正確に予測する方法を検討することを目的としています。
個人情報の保護	収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いた

について	します。患者さんを特定するための情報は、個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院心臓血管・呼吸器外科 杉原貴仁 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5331